

米のスーパー等への納品状況について

(卸売業者等から、令和6年産米のスーパー等への納品状況について聞き取りました。)

(1) 卸売業者からスーパーへの納品状況

- 南海トラフ地震臨時情報の発表とその後の神奈川県西部地震等の影響による買い込み需要により、店頭での欠品や品薄が発生した後、新米の出回りとともに9月に入ってから徐々に解消に向かい、9月下旬には概ね品薄感は解消された。
- 10月に入って、ほとんどの店頭の棚には定番の精米が並び、ほぼ平常の米売り場となっている。
- スーパーへの納入は、ほぼ新米(6年産米)への切替えが完了している。
- 品薄時に多くなっていたスーパーからの発注数量は落ち着き、納入数量の制限も解除している。今後も引き続き、スーパーの発注に応じて供給を継続していく。
- 10月中旬ごろから、一部店舗ではチラシによる特売やセールなどが再開されている。
- 10月以降、特売を行っても売れ残りが出るなど売れ行きは鈍っており、スーパーでの販売量は去年同期を下回って推移している。
- 関西地方でも、店舗の棚に定番アイテムが並んでおり、また、チラシによる特売を再開しているスーパーも出てきたが、9月下旬ころから、スーパー等での販売量は大きく減少し、その状況が続いている。

(2) 6年産米の仕入状況

(関東地区)

- 千葉県、茨城県産のあと、北陸、北海道、東北の主産地の銘柄の仕入れも本格化しており、家庭用向けは概ね各産地の新米が出そろっている。
- 新米の仕入については、産地での集荷競争等より調達に苦戦している産地銘柄もあるが、足元では概ね順調に仕入れができています。

(関西地区)

- 富山県や福井県等の北陸の産地の仕入れに加え、更に、10月中旬からは西日本の各産地の銘柄の仕入れも始まっており、足元の新米の仕入れは概ね順調であるが、今後の産地での集荷の状況等を注視している。